第1課
10月6日

創造と堕罪

暗唱聖句

「主は彼を外に連れ出して言われた。『天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。』そして言われた。『あなたの子孫はこのようになる。』アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」　（創世記 15：5、6、新共同訳）

「そして主は彼を外に連れ出して言われた、『天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい』。また彼に言われた、『あなたの子孫はあのようになるでしょう』。アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた」
（創世記 15：5、6、口語訳）

今週の聖句

創世記1：26、27、Ⅰヨハネ4：7、8、16、創世記3：16～19、創世記11：1～9、創世記3：29、申命記7：6～11

安息日午後 9/29

今週のテーマ

神の民の物語は、人類の創造と悲劇的な堕罪から始まります。教会における一致の本質を理解しようとする試みはすべて、天地創造における神の当初の御計画と、堕罪後の回復の必要性から始めなければなりません。

聖書の最初の数章は、人類が一つの家族であり続けるように神が意図されたことを明らかにしています。残念ながら、罪の悲劇のあと、この一致は引き裂かれてしまいました。罪の中から、不一致と仲違いの根が、さらなる不服従の忌まわしい結果が生じました。私たちはこの仲違いを、アダムとエバが禁断の木の実を食べた直後に神が初めて彼らに近づかれたとき（創3：11参照）の2人の意志疎通の中に少し感じます。それゆえ、救済計画が成し遂げるあらゆることの中でも、当初のこの一致を回復することは、極めて重要な目的の一つです。

神の民の父であるアブラハムは、神の救済計画における立て役者となりました。アブラハムは聖書の中で「信仰による義」（ロマ4：1～5）の偉大な手本として描かれています。その信仰とは、神の民同士を、また神の民と主御自身を結びつけるような信仰のことです。人間を通して、神は一致を回復し、迷える人類に御心を知らしめるために働かれます

日曜日 9/30

一致の基礎としての愛

創世記１章、２章の天地創造物語から流れ出ている明確なメッセージは、天地が創造された週の最後に全体的な調和が存在していたということです。すべてのものは「極めて良かった」（創１：31）という神の最後の言葉は、神がこの世界とそこに住む人間を造り終えられたとき、ただ審美的に美しかっただけでなく、悪や不和の要素がまったくなかったことを指しています。天地創造における神の当初の目的には、あらゆる生命体の調和的共存と相互依存の関係が含まれていました。それは、人類家族のために造られた美しい世界でした。すべては完璧で、創造主にふさわしい状態でした。この世界に対する神の究極的かつ当初の目的は、調和、一致、愛でした。

創世記１：26、27を読んでください。この聖句は、創世記１章、２章で描かれているように、地球上のほかの被造物と比較して、人間の独自性について教えています。神が御自分にかたどって人間を創造されたと記しています。創世記の創造物語の中で、ほかのいかなるものについても、そのようなことは言われていません。「『我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。』……神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」（創１：26、27）。神学者たちは何世紀にもわたって、この「かたち」の正確な性質と神御自身の性質について議論してきましたが、聖書の多くの箇所が、神の御性質は愛であると述べています。

問１ **Ⅰヨハネ４：7、8、16を読んでください。これらの聖句は、私たち人間がそもそもどのように造られたのか、またそのことが天地創造に見られる当初の一致にどのような影響を及ぼしえたのかということを理解するうえで、いかに助けとなりますか。**

神は愛です。そして、人間も（地球上のほかの被造物には決してできない形で）愛することができるのですから、神にかたどって造られることには、愛する能力が含まれているに違いありません。しかし愛は、他者との関係の中にしか存在することができません。それゆえ、神にかたどって造られることにどのようなことが伴うにせよ、それには愛する力が、しかも深く愛する力が伴っているに違いないのです。

月曜日
10/1

堕罪による影響

堕罪による影響は、深刻でした。アダムとエバの不服従は、あらゆる生命体の調和の取れた相互依存関係を引き裂き始めました。さらに悪いことに、それは、今日存在する人間たちの間にさえ、不一致、不和、仲違いを生じさせました。この不協和音は、アダムとエバが堕罪の責任を相手になすりつけようとしたことの中に早くも見られます（創 3：12、13）。それ以来、事態は悪くなる一方です。

問2 **創世記 3：16 ～ 19 と4：1 ～ 15 を読んでください。これらの聖句の中のどんなことが、罪の結果と、神が創造された調和の取れた世界に及ぼした罪の影響を明らかにしていますか。**

アダムの不服従は、長い時間をかけて神のあらゆる被造物に影響を及ぼす多くの出来事や結果の原因になりました。自然界自身が罪の結果に苦しみ始め、人間関係も影響を受けました。互いに愛し、配慮し合うべきであった2 人の兄弟、カインとアベルは、仲違いしました。1 人が、神の定められた礼拝方法に従うよりも自分の身勝手な傾向に従いたい、と望んだからです。この仲違いは、結果的に暴力と死をもたらしました。しかしカインの反発は、アベルよりも神に向けられたものでした。彼は神に対して怒りを感じ（創 4：5）、その怒りがアベルへの敵意になったのです。不服従は人間関係をさらに引き裂きました。

「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になっ（た）」（創 6：5）。この悪が最終的に大洪水をもたらし、その結果として、神の当初の被造物が途方もなく破壊されてしまったのです。しかしその時でさえ、神は人類を見限ることなく、再出発のために残りの民（ノアと彼の家族）を残されました。

大洪水のあと、神はノアと彼の家族に一つの約束をなさいました。空にかかる虹は、神の配慮と約束、神の親切と憐（あわ）れみをいつも彼らに思い出させるでしょう（創 9：12 ～ 17、イザ 54：7 ～ 10）。神はノアと契約を交わし、神と神の言葉に忠実な一致した人類家族を持つという当初の計画をもとに戻されたのです。

◆ **罪はいかに不協和音をもたらしますか。あなたの選択が強い影響を及ぼす人たちの間で調和を取り戻すために、どのような選択をすることができますか。**

火曜日
10/2

さらなる不一致と分裂

問3 創世記11：1～9を読んでください。分裂と不一致の問題をさらに悪化させるどのようなことがここで起きましたか。

大洪水のあと、聖書が記録している次の出来事は、バベルの塔の建設、言葉の混乱、そして、それまで一つの言葉を話していた人々の離散です。恐らく、チグリス川とユーフラテス川の土地の美しさと土の肥沃さに魅せられて、ノアの子孫のある者たちがシンアルの地（現在のイラク南部、創11：2）に町と高い塔を建設することにしたのでしょう。

考古学は、メソポタミアが有史時代の最初期から人口密集地であったことを明らかにしてきました。その人たちの中にはシュメール人がおり、彼らは粘土板に文字を書く技術を考案したとされています。彼らは上手に構築された家を建て、宝石、道具、家庭用品を作る名人でした。発掘調査によって、さまざまな神々の礼拝にささげられた塔のような寺院も、これまでたくさん発見されてきました。

シンアルの地に住みついたノアの子孫は、すぐにノアの神と、その神がこの世界を洪水によって二度と滅ぼさないと言われた約束を忘れてしまいました。バベルの塔の建設は、彼らの優れた知恵と技術の記念碑だったのです。「有名になろう」（創11：4）とする、名声や評判を望む彼らの気持ちがこの建設計画の動機の一つでした。「神の意図に従えば、人間は真の宗教と結びつくことによって一致を保つはずであった。偶像礼拝と多神教がこの内面の霊的結びつきを断ったとき、彼らは宗教の一致だけでなく、同胞の精神をも失った。失われてしまった内面的一致を外面的手段によって保とうとするために塔を建設するような計画は、決して成功しなかった」（『SDA聖書註解』第1巻284、285ページ）。

アダムとエバの堕落によって、人類の一致と神の当初の御計画は粉々に砕けました。それは結果として、礼拝に関する混乱を生じ、地球上に悪と不道徳を広く蔓延（まんえん）させ、最終的に人類をさまざまな文化、言語、（それ以来、しばしば反目し合ってきた）人種に分けてしまったのです。

◆ **教会の中でも私たちを苦しめる人種、文化、言語の壁を取り除くのに役立つどんな実際的な対策を、私たちは講じることができますか。**

水曜日 10/3

神の民の父、アブラハム

世界三大一神教であるユダヤ教、キリスト教、イスラム教は、いずれもアブラハムを父とみなしています。クリスチャンにとって、このつながりは霊的な関係です。アブラハムはメソポタミアの故郷を離れるように召されたとき、「地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る」（創12：3、さらに18：18、22：18も参照）と言われました。その祝福はイエスを通してもたらされました。

問4 **ヘブライ11：8～19、ローマ4：1～3、ガラテヤ3：29を読んでください。これらの聖句は、アブラハムの信仰のどのような要素について述べていますか。それらは、クリスチャンの一致とどのように関係していますか。言い換えれば、現代の私たちが、クリスチャンの一致を構成する不可欠な要素が何であるかを理解するうえで助けとなるどんなことを、聖句の中に見いだせますか。**

あらゆる信者の父として、アブラハムは私たちに、クリスチャンの一致の中心となる基本的要素のいくつかを教えています。第一に、彼は服従を実践しました。「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです」（ヘブ11：8）。第二に、彼は神の約束に望みを置きました。「信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです」（同11：9、10）。第三に、彼は、神が息子を与えてくださること、そしていつの日か、彼の子孫が星のように数多くなることを信じました。このような応答に基づいて、神は信仰によって彼を義と認められたのです（ロマ4：1～3）。第四に、彼は神の救済計画を信じました。アブラハムの信仰が最も試されたのは、神が彼に、モリヤの山でイサクをささげなさい、と求められたときでした（創22：1～19、ヘブ11：17～19）。

旧約聖書は、アブラハムのことを神の友と記しています（代下20：7、イザ41：8）。彼は、信仰によるその生き方、揺るぎない服従、神の約束に対する確信のゆえに、現代のクリスチャン生活のあるべき姿の手本です。

◆ **これからの数日間、あなたの言動について考えてください。どうしたらあなたの言動があなたの信仰の現実を確実に反映するようにできるでしょうか。**

木曜日
10/4

神の選ばれた民

神は、御自分の僕（しもべ）になるアブラハムを召すことで、この世に神をあらわす一つの民を選ばれました。この召しと選びは、神の愛と恵みからでした。イスラエルの神の召しは、堕罪によって引き起こされた荒廃と不一致のあとの全人類を回復する神の御計画の中心でした。聖なる歴史は、このような回復に対する神の働きの研究であり、この計画の主要な要素がイスラエルという契約の民でした。

申命記 7：6 ～ 11 によれば、神がイスラエルを御自分の民として選ばれたことの中心にあるのは、人類に対する神の愛です。神は、御自分の民を通して神の知識を保存し、人類の救いをもたらすために（詩編 67：3〔口語訳 67：2〕）、アブラハムと彼の子孫との間に契約を結ばれました。しかし、神がイスラエルをお選びになったのは、究極の愛の行為であり、アブラハムの子孫には、身に余る神の愛を要求するために誇るべきものは何もありませんでした。「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった」（申 7：7）。

神が御自分の民を選ぶためにお用いになるのは、不思議な価値観の逆転です。人間は指導者を選ぶ際に、権力、知恵、自信などに目を向けますが、神は御自分に仕えさせるために強い人や権力者をお選びになりません。そうではなく、自分の弱さ、愚かさ、価値のなさを感じたり、認めたりしている人を選ばれます。だれも神の前で誇ることがないようにするためです（Ⅰコリ 1：26 ～ 31）。

しかし、彼らのものであった特権に目を向けてください。「神は、その民イスラエルを、ほまれとし、栄光としようと望まれた。あらゆる霊的な便宜が彼らに与えられた。彼らが神の代表者にふさわしい品性を形成するために役立つものは何であっても、差し控えることなく神から与えられていた。

神の律法に従順であることは、世界の諸国の前で彼らに驚嘆すべき繁栄を得させるものであった。すべての巧みなわざをなす知恵と技量を与えることのできる神は、いつまでも彼らの教師となり、神の律法に対する従順を通して彼らを高められるのであった。彼らは、もし従順であれば、他の諸国を襲った疾病（しっぺい）から守られ、豊かな知性に恵まれるのであった。神の栄光と尊厳と大能は、彼らの繁栄の中にあらわされ、彼らは祭司と王の国となるのであった。神は彼らを、地上最大の国家とするためのあらゆる必要なものを提供しておられた」（『希望への光』1297、1298 ページ、『キリストの実物教訓』266 ページ）。

◆　神が古代イスラエルのためになされたことと、神が彼らを召されたこととの間には、また神が私たちのためになさったことと、神がアドベンチストとして召されたこととの間には、どのような類似点がありますか。

金曜日
10/5

さらなる研究

参考資料として、『人類のあけぼの』第2章、第11章を読んでください。

人類の創造における神の目的は、家族（創2：21～24）と安息日を制定されたことの中に反映されています。イエスがマルコ2：27、28ではっきり示しておられるように、安息日は全人類のために意図されました。実際、その普遍的な性質は、創世記の記事の中に見られます。神が第七日を取りのけられたのは、御自分の契約の民としてイスラエルを召す前であり、罪が侵入する前でした。もし、すべての人が安息日を守っていたら、どれほど強力な求心力があったことでしょう。安息日は、神がアダムとエバの子孫に、神やお互いに対する共通の絆（きずな）を思い出させることを意図した休息の日でした。

「安息日と家庭は同じようにエデンにおいて定められ、神の目的の中にあって切っても切れない密接なつながりを持っている。この日にはほかの日よりも特にエデンの生活を送ることができる。家族の者たちが、父親を家庭の祭司とし、また、父と母とを子どもたちの先生とし友だちとして、働きに勉強に礼拝にレクリエーションに、共に交わることが神のご計画であった」（『希望への光――クリスチャン生活編』309ページ）。

話し合いのための質問

❶ バベルの塔の物語は、人種的、言語的多様さが人類に対する神の当初の御計画でなかったと述べています。私たちはこのような分裂をいかに乗り越えることができますか。たとえ教会が、さまざまな人種や言語の人々で構成されていようと、いかに一致と調和を体験することができるでしょうか。

❷ 古代イスラエルの召しとセブンスデー・アドベンチストの召しの間には、共通点があります。私たちはその共通点から、キリストにある神の召しに忠実でいることの助けとなるどんな重要な教訓を得ることができますか。

まとめ **天地創造における神の当初の御計画では、人類が一つの家族のように調和して、仲良く暮らすことが意図されていました。私たちの最初の両親の不服従は、神の御計画の妨げとなりました。しかし神は、一つの民を興すためにアブラハムを召されました。彼らを通して、キリストによってのみ見いだされる回復の約束を存続させるためです。**